

(五) 舩石^{もやいし}

町文化財 昭和五十五年七月指定

舩石とは、船が流されないように、港になぎとめておくための石のことです。昔、稲取の漁業が大変盛んであったころ、この石が使われたといわれています。

舩石は、今は三つ残っていることがわかっています。その三つは、役場前の港に面した広場に置かれています。

この石は、いつごろ石に穴を開け、舩石として使い始めたかわかっていません。イルカの追い込み漁に使われたとも言われていますが、はっきりしません。

稲取では、大正時代^{たいしょうじだい}（一九一二年～一九二五年）にマグロ漁が盛んであり、多くのマグロを釣る^{なわふね}縄船がありました。縄船とは、マグロを釣るために、一本の長い縄に適当な間隔をおいて多くの針をつけた糸をつけた延縄漁^{はえなわりよう}をする船のことです。この船は、夏には船揚場^{ふなあげば}

に船を揚げていますが、その他のときこのような舩石につながれていたと考えられます。

